



高校生から次世代へ

茨城県立牛久栄進高等学校

背景

高校生でも些細な事でも誰かの役に立つ事ができないか？

それぞれの分野での目的

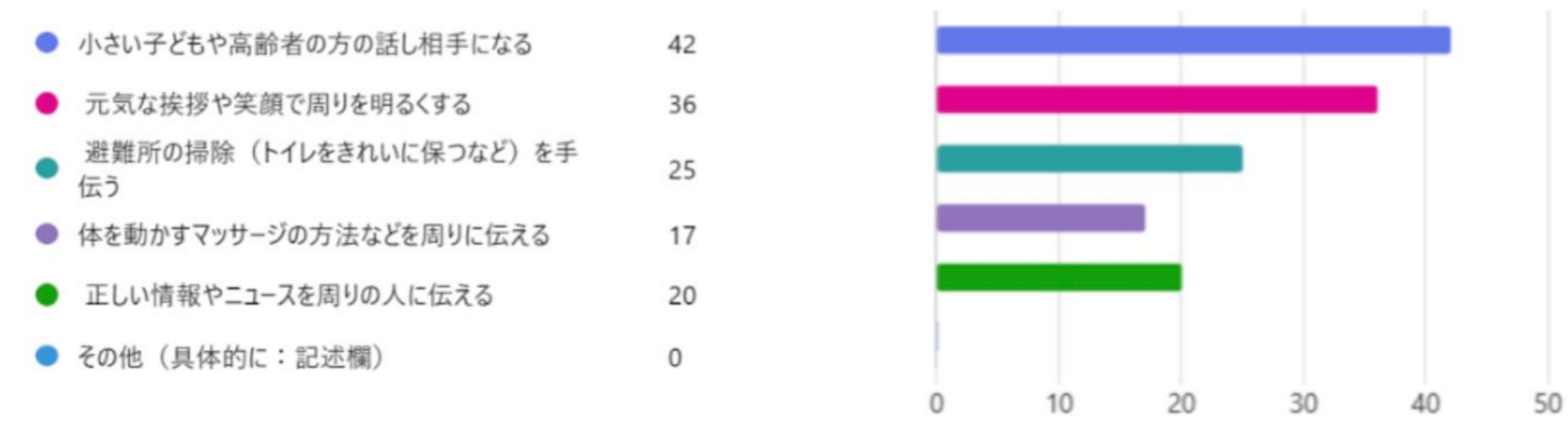
- ・ 防災意識の啓発・子どもから大人までが楽しんで学ぶ
- ・ 体験を通して自分ごとにする・ボランティア
- ・ AED（自動体外式除細動器）・心肺蘇生



実際に小学校で講話を開いた事後のアンケート結果

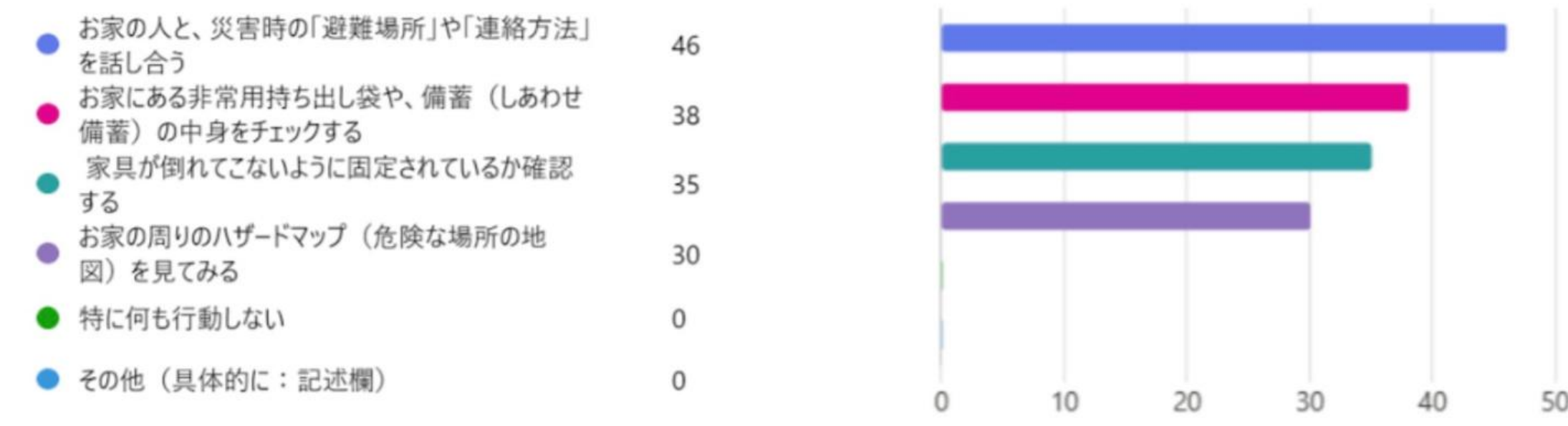
アンケートの結果から分かる 記憶・印象に残った話題の傾向

5. 高校生から「肉体労働だけがボランティアではない」「中学生は元気な姿を見せたり、話し相手になったりすることも大切なボランティア」というメッセージがありました。あなたなら、避難所や地域でどんなことで貢献できそうですか？（複数選択可）



- ・クイズで出題したところ
- ・ワークショップを行った内容
- ・強調するために言い方を変えた部分

3. 第三部：これからの行動（自分事として考える）



それを受けて講演したひたちの牛久中学校での様子

記憶に残り、楽しめる 講座にするためには？

具体的な案

40分 想定 of 講座

10分 講義形式

5分 クイズ

10分 講義形式

5分 クイズ

10分 ワークショップ形式

伝えたいことのメリハリを
つけて、優先順位をつける

Re:Lightプロジェクトとは

- 能登半島地震の復興支援を目的に、生徒有志が校内で立ち上げたプロジェクト。校内での活動にとどまらず、地域での募金活動や被災地でのボランティア活動など、生徒が主体となって復興支援に取り組んでいる。
- 大きな被害を受けた能登半島を元の姿に戻すとともに、若者離れが進む地域や被災者の心身の健康を守っていく活動。また、ニュースでなかなか取り上げられなくなった能登の現在や災害自体に関心を持ってもらう。
- 「高校生」しか持ち得ない若々しさや元気を届ける。

この活動で集めたお金は募金ではなく**現地ボランティアをする為のバス代**

☆実施内容☆

街頭募金→幅広く無作為に周知
物販（かき氷等）→交通費捻出
企業訪問→活動の全容と想いを確実に伝える
現地ボランティア

★結果・変化★

参加者数:のべ100人
集めた金額：約200万円
支出：バス代125万円、チラシ等2万3千円
能登への寄付:約40万円（能登高校クッキー販売等）
現時点で全3回実施済み(11月には第4回も決定)
能登高校との交流、つながりの強化
実際に行動した人からの広がり



☆ 今後について ☆

活動を能登支援 → **災害支援＋防災減災拡大** に発展させる

- 熊本地震支援
- 他校との協力体制

校内での**安全で意味のある活動**の継続、**システム作り**

継続的な支援は被災した地域住民との繋がりを強くし、私たちの活動に興味を持ってもらった茨城の地域の方々との関係を深めた。

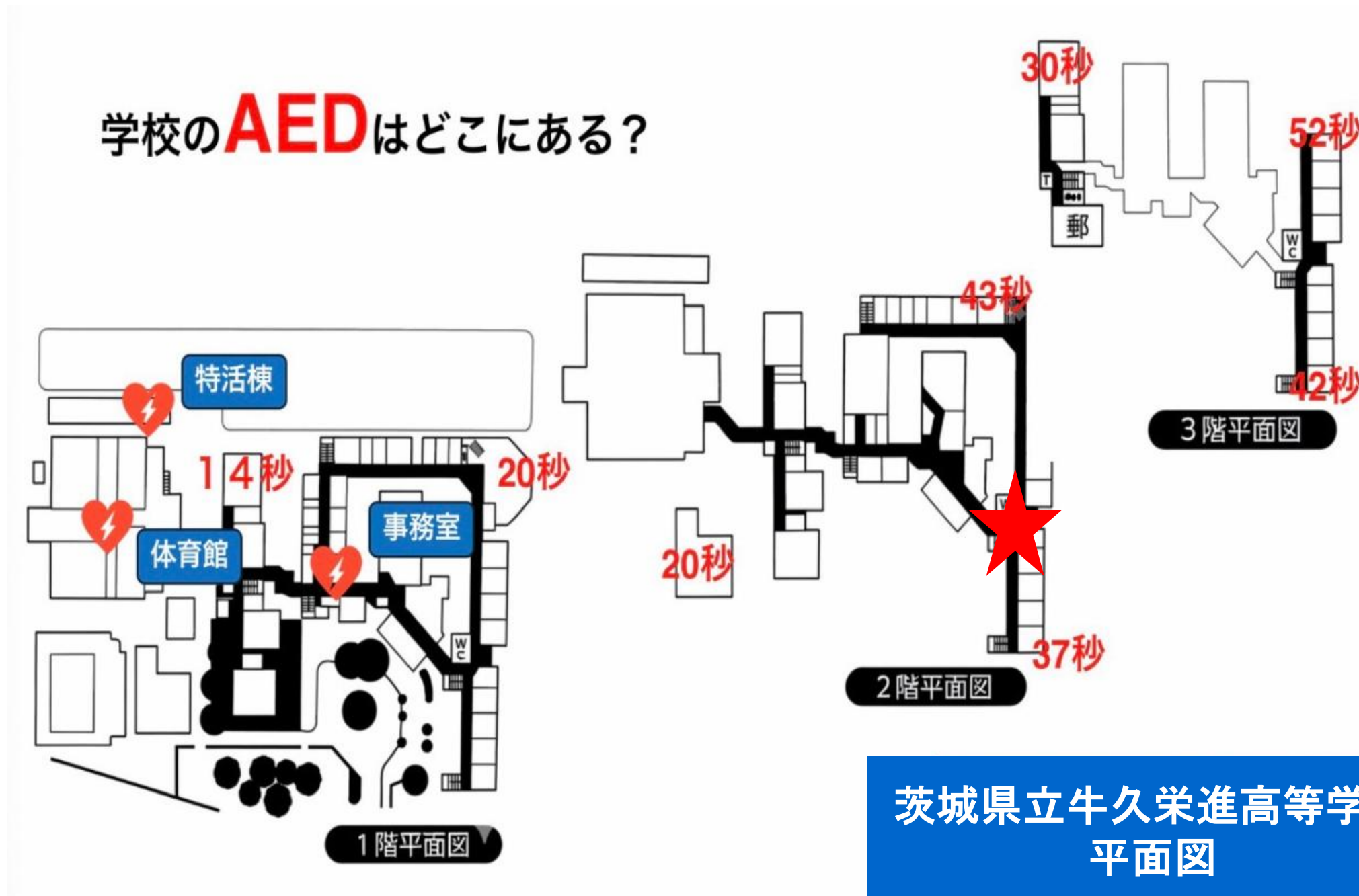
学校で発生するかもしれない突然の心停止から、 みんなの**命**を守りたい！

きっかけ

- ・チアリーディングのチームで開催された心肺蘇生・AED講習を受けた。
- ・それまで受けたことがある「やり方」を学ぶ講習とは違い、その時の講習が「どうしてそうするのか？」という仕組みを学ぶ講習会だった。
- ・その講習を受講を通して、心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）やAEDの使用の重要性を理解し、このような学び方が、受講生の意欲の向上につながると思い、主に二つの活動を行った。

校内のAED設置場所を調査

本校のあらゆる端からAEDの場所まで走って計測した



この結果から、本校2階に
新たにAEDが設置された。
→AEDを取りに行くまでの
所要時間が短くなった。

まとめ

○自分事にする

防災や救命を「誰かの問題」ではなく、「**自分の家族や身近な人の問題**」として捉え直す。

○広げる

学校や地域、更には次世代を巻き込んで防災意識や救命に関する理解を深め、広げていく。

○やってみる

高校生である私たちが、**自ら学び、行動し、共有し続ける**ことで、誰もが命を守る行動を取れる社会にしていく！

出典・参考にした資料

防災に関する世論調査(令和7年8月調査)

<https://survey.gov-online.go.jp/202510/r07/r07-bousai/gairyaku.pdf>

気象庁

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/assumption.html>

東京防災ホームページ

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/021/571/01nnnn.pdf